

中医鍼灸セミナー

講師：陳 雷 2024/01/28（日）

一、手三陰経の経絡弁証

（一）経絡弁証の概論

1. 定義 経絡学説（理論）に基づき、临床上に現れた症状と徴候を分析しながら病の所在する経絡と臓腑を弁明し、さらに発病の原因、病機、性質などを判断する弁証方法である。

2. 経絡弁証のまとめ

症状と症状の位置 ⇒ 病位の確定

3. 経絡弁証の要点

①「是主〇所生病」②経脈に所属する臓の病症 ③経脈が走行する場所の病症

（二）手三陰経の弁証

- 手太陰肺経の弁証 「是主肺所生病」 肺脹満、喘咳、缺盆痛、上肢内側前痛
- 手少陰心経の弁証 「是主心所生病」 噎乾、心痛、渴而欲飲、目黄、脇痛、上肢内側後痛、掌中熱痛
- 手厥陰心包経の弁証 「是主脈所生病」 煩心、心痛、動悸、面赤目黄、胸脇支満、腋脹、上肢内側攣急、掌中熱

二、手三陰経の常用経穴

- 手太陰肺経の経穴 中府 尺沢 孔最 列缺 太淵 少商
- 手少陰心経の経穴 極泉 少海 靈道 通理 陰郄 神門 少府 少衝
- 手厥陰心包経の弁証 曲沢 郄門 内関 大陵 勞宮 中衝

三、鍼灸療法の治療効用

- 経絡の疎通 経絡（通路）を疎通し、気血の流れを改善する。
- 陰陽の調和 陰陽平衡を調和する。
- 扶正と祛邪 扶正（正気を扶助、補強する） 祛邪（邪気を除去する）

四、アトピー性皮膚炎の改善における鍼灸療法の弁証論治

（一）アトピー性皮膚炎とは

アトピーの素因による増悪と軽快を繰り返す掻痒のある皮膚疾患です。
中医学の「湿疹」に相当する病症です。

（二）症状の特徴

- 痒み ●赤くなる ●乾燥（カサカサ）
- 湿疹（左右対称、首・肘膝の内側など） ●硬くなる

(三) 中医鍼灸療法の弁証

1. 主要症状 ①皮膚感覚：痒み、熱感
②皮膚状態：乾燥、発赤、発疹、滲出、糜爛、鱗屑、肥厚 など
2. 中医診察 ①望診（皮膚の形、態、色と全身状態）
②按診（患部の厚み、乾燥感、熱感）
③問診（本人の感覚、病程など）
④脈診、舌診
3. 病因病機
【外因】風・熱・湿・燥 ⇒ 邪襲皮膚 ⇒ 搔痒・発赤・滲出・糜爛
【内因】気弱・血虚・陰虧・血瘀 ⇒ 皮膚失養・皮絡瘀阻 ⇒ 乾燥・鱗屑・肥厚
4. 弁証分類 ①病勢緩急の分類 ■寛解期 ■発作期
②病因内外の確定 ■先天不足■胎毒遺熱■情志失調■偏食過食■外邪侵入
③正邪盛衰の判別 ■実証 ■虚証
④病位表裏の確定 【表裏】 皮膚一臟腑気血
【経絡】 皮部・浮絡一本経一臟腑
⑤病性寒熱の弁別 ■熱証 ■寒証
〔まとめ〕 風熱襲表 湿熱内盛 血熱壅盛 陰虚血燥 気虚湿蘊 瘀血阻絡

(二) 鍼灸療法の論治

1. 治療方針 ■急則治其標 → 祛邪通絡止痒
■緩則治其本 → 臟腑補益 気血調和
2. 経絡腧穴処方 ①腧穴処方
●基本配穴：阿是穴（患部） 曲池 合谷 血海 三陰交 肺俞 膈俞
●弁経配穴 【風熱襲表】風池 風市 風門 大椎
【湿熱内盛】陰陵泉 内庭 大椎
【血熱壅盛】大椎 外関 太衝
【気虚湿蘊】太淵 足三里 太白 中脘
【陰虚血燥】風池 風市 照海 太谿 太衝
【瘀血阻絡】阿是穴 付近腧穴
②治法選択 ●鍼刺法 直刺法 浅刺法 留鍼 皮膚鍼 瀉血法
●灸法 棒灸・隔物灸・温鍼灸
●拔罐法（吸い玉） 定罐法
3. 鍼灸治療
①体位：臥位（俯せ・仰向け・側臥）
②補瀉： 患部→平補平瀉
弁証腧穴→補：気血臟腑の腧穴
瀉：祛邪の腧穴